7

明治廿九年の大津波

久慈港被害惨況

久慈町六月十九日午後八時十分
對馬特派員發

當久慈港に着し被害當日の有様を聞くに十五日午後九時十五分強震あり夫より十三分間に二回の鄉音きを聞き次て同三十分海上遥に凄まじき鄉音せしと思ふ間もなく高さ五丈許りの海嘯起りて瞬く間に八日町迄(港より一里)押上げたりしも僅々五分間にして濁水全く退きたり濁潮の退くや八日町の消防夫人民は救護の為めとして相呼びお呼び役場員巡査と合して同夜十時藥其他を携帶して被害の現場に駈付け救助を取り掛りた

れとも眞の闇夜にして咫尺を辨ぜず探し求むるに術もなければ人々唯叫喚の聲を目當てに駈け廻る中折角見出ん被害者も助け起さば心緩みてか早絶息の體なり周章て藥を與ふれば嚥み下す力もなくて其儘絶命したるもの最と多し

當地の溺死者は三百餘生死不明の者百五十餘名家屋は僅に二戸を餘すのみにて他は皆流失せり

生存者は難を山に避けたる若か或は木枝の爲め壓せられて身動きも叶はざるものゝみにして山中に逃れたるものは絶食三日位として漸く他の救護に依りて再生の心地せりと

溺死者の死體は席に包みたる儘今尚ほ海岸の此處彼處に散布堆積して臭氣鼻を撲つに堪へず

久慈港は三十分間に三回海嘯押寄せたれは其惨狀は見るに堪へず今日も死體捜索堀出中なるか當港第一の金満家金田氏の一家を挙げて溺死したるを始めとし家族全滅の者十五戸餘又及び此他僅ま一人生き残りたるもの多し野田小畑大尻の被害は莫大なるが此の地方より北海道への出稼人は千三百人あり故郷の大変を聞て昨今続々帰り来れば父母妻子は已に此の世の人に非す相顧みて只泣くのみ惨憺実に極まれり三日間海上に漂ふて僅に一命を助りしも有り當時沖ま漁りして海嘯の其家を襲ひしを知らざりしも有りといふ此地は今より四十七年前山ヒホあり四十一年前海嘯ありしも當時は死人なかりしとぞ

一百四十戸中僅に四戸
蘇普代村は寺と民家四戸を残して百三十餘戸悉く
流失す
節句祝日意外の死傷
海嘯當日は（旧暦端午）節句の祝日なりしと一點の
燈火なかりし爲め死傷意外に多く家屋は悉く
破壊せられて屋根其形を止めず　以上六月二十日報

宮古六月二十四日の報

田老の被害

三縣下中最も惨状を呈せしは下閉伊郡田老村なり同村は
総戸数三百六十戸悉皆流失して跡を留めず人民一千三百
名中死を免れたるは當時上京中なりし村長某と沖合
に出漁し居たる漁夫とを合せて五十三人のみ

釜石附近の被害　六月二十四日特報　釜石

越喜来、小白濱　荒川　本郷　平田　釜石の各地は地勢相
均しく孰れも外洋に面し居る中に吉濱は常に海波荒き
土地にして海嘯の高さ十丈餘に達し二抱もある杉の大木を
什と崖際の大石を崩し三十餘の家屋を影も留めず奇
麗に洗ひ去れり然るに大石白根等正南若くは正北に向ひたる
土地は被害地に近接しながら更に害を被らず釜石にても
難を逃れたるは北方の山際にある家屋のみなり唐丹村の
収入役某は家族十一名を溺死せしめ僅に身を以て免かれ
たるも負傷し居れり　六月二十五日特報　山田

潰家の取片付

破壊家屋取片付のため花巻より人夫百名傭ひたるも猶ほ

不足を告ぐるを付第二師團の工兵宮古より和泉艦にて只今
来着す

白米の到着 罹災の救護　六月二十四日 宮古特報

岩手縣廳が函館にて買入れたる白米四百石は昨二十三日到着し内二百石は直に山田へ向け廻送せり今後二十日間を支へ得べし其後の善後策は未だ定まらざるも目下の急務といふべきは罹災漁民に漁船と漁網とを與ふるにあり又村民の常職とする昆布の收穫期は来三十日後なるべし

○一村の生存者十一人 北閉伊郡小本村字太田名部は四十二戸の内一戸を餘せるのみにて其他の家屋悉く流失したる程なれば幸くも溺死を免れて生存せる者僅に十一人（内男三人女八人）あるのみなりと云ふ

明治二十九年六月廿五日 岩手公報掲載

岩手縣知事の海嘯報告　廿四日附

本月十五日ハ天候朝来朦朧として温度ハ八十度乃至九十度を昇降し平年ニ比すれば其暖きこと十度以上にして人々大に困めり然れども季節の不順なるハ梅雨の常にして殊に時恰も舊暦端午の節なるを以て各町村落に於てハ或ハ親戚を訪問し相祝するあり或ハ友人相會し宴飲せるありて各歡を盡しつゝありしが暮夜に至り數回の地震あり又午後八時頃東閉伊郡沖合に於て突然一發巨砲を放ちたる如き響音ありたれども沖合の鳴動ハ普通のこと或ハ軍艦の演習ならんと信じ更に意に介するものあらざりき

然るま其響音の歇むや未だ数分間ならざるに海嘯俄に至り狂瀾天を衝き怒濤地を捲き浩々として驀地押し寄せ市街となく村落となく總て狂瀾泥濘の没する所となり沿海一帯七十餘里僅かに一瞬間にして人畜家屋船舶其他悉く殆んと一掃し去れり輙ち昨日まで家屋櫛比の市街も今や変じて平沙荒涼となり死屍い累々堆をなし家屋ハ流壊し満目一として惨憺悽愴ならざるなし其惨狀實ま戦慄嗚咽の至りに堪へざらしむ而して其狂瀾の高さハ八十尺以上に騰れりと云ふ潮勢の緩急ハ固より一定せずと雖も西南ま面する處最も暴掠侵害甚し然るま當日沿海を隔て約二里の遠沖に漁猟せし漁夫等ハ稍波浪の高きを覚えたるのみにして斯る凶災のありしを

知らず陸地に到着して始めて海嘯の被害を知りたりといふハ奇と云ふへし

因て被難者救助の為め警部長をして各被害地を巡視せしめ且つ書記官を東閉伊郡地方ハ収税長を氣仙南閉伊地方に参事官を九戸地方に派出し指揮を司らしめ而して縣属警部ハ氣仙地方に九名南閉伊郡に六名東閉伊に十二名南北九戸郡に三名西閉伊に一名北閉伊郡に二名を派遣遣し巡査百十三名を被害地各廨署に配置し之に人夫四百五十人を隨はしめ夫々生存者救助死体取片付等に従事せしむ其他各町村の消防夫及有志者寄附にかゝる人夫等を合せて四千有餘人を派遣せり

如此なるが故に醫師の死亡も尠なからず適と死を免れたる

もの多くも藥品機械等皆流失一も遺す所なし因て不取敢多量の石炭酸繃帶繊絲等急救用として送附したれども到底是等の医師にて不完全なる救療を為すこと能はざるを以て医師十五名看護婦十五名を雇上げ負傷者救治に従事せしむるも負傷者の多数なる尚不足を感ずると雖も如何せん當地方医師の小数なるを以て大困難を来す居る處恰も好し第二師團より軍醫十二名赤十字社より医師七名藥剤師二名看護人二十八名を派遣せられたるを以て各被害地に分遣し救治に従事せしめたるを以て大に便を得たり然れども之を以て未だ十分なりと云ふを得さりしに又々第二師團より工兵一小隊之に軍医一名を附せられ又福島赤十字社支部より医師五名看護人一名ありたるを以て工兵小官古地方に向け醫師ハ各被害地に向ひ

しめたり其他被害地近隣の町村より医師数十名をして治療に従事せしめ且各被害地より時々請求ある毎に藥品器具等今尚送付しつゝあり然りと雖も田園は荒廢し家屋ハ流亡し居るに家なく食ふに米なく適と死を免かれたりと雖も今や饑餓の困難に陥り数日を出でずして死地に就かんとするを以て白米一千石餘を被害各地に送付し見舞窮民の救助に充たり猶各郡の状況を概記することと左の如し

気仙郡ハ被害各郡中廣庚最も廣く被害の部分も少なからず廣田村六ヶ浦と称する所の如きハ水面より高きこと五丈餘の所にある民家を碎き激波の為め数丈の高き山頂に船を打揚げ巡査駐在所ハ流失し駐在巡査は重傷を負ひ家屬ハ皆流亡せり

末崎村に於ても巡査駐在所流失駐在巡査重傷を負ひ家族六名皆死亡せり　大船渡の如きハ沿海十八丁餘間の電柱悉く折れ　小友村ハ浸害田畑百八十丁歩に渉れり

綾里村の如きい死者ハ頭脳を砕き或ハ手を抜き或ハ足を折り實に名状をへからず村長一名を残すのみ尋常小學校駐在所皆流失して片影を留めず駐在巡査ハ家屬と共に死亡せり

越喜来村巡査駐在所流失し駐在巡査家族と共に死亡せり而して尋常小學校も流失したれとも訓導佐藤陳ハ妻子の死を顧みず辛うじて御真影を安全の地に奉置せり

唐丹村ハ郡内第一の被害地にして巡査駐在所流失し

駐在巡査い家族と共に死亡し二千八百餘の人口にして死亡二千五百を出したるは実に悲惨の至りなり而して其概数左の如し

村	人口	死亡	負傷	健在	戸数	流失家屋	半潰家屋	存在家屋
氣仙	三六五一	二三	一〇	三六一八	五六九	三五	一六	五一八
高田	三四九八	三	未詳	三四八六	六一六	未詳	未詳	六一六
米崎	三四六〇	一二	二	三四四六	三五〇	一一	五〇	二八九
小友	二五一九	二六〇	一四	二二四五	三八一	七〇	五	三〇六
廣田	三一〇二	五〇〇	一一	二五九一	四九六	一六三	未詳	三〇六
末崎	二九六五	六〇六	三〇	二三二九	四〇〇	一九一	未詳	二〇九
大船渡	二三〇四	七八〇	三五	一四八九	三〇六	一〇五	三〇	一七一
赤崎	二九八五	四四八	六八	二四六九	三九八	一七二	未詳	二一七

村	人口	死亡	負傷	健在	戸数	流失家屋	半潰家屋	存在家屋
綾里	二八〇三	一四五八	五九	一二八六	四五一	二八五	一〇〇	六六
越喜来	二四四九	四一一	六〇	一九七八	三二二	一一三	一二四	八五
吉濱	一〇七五	二一五	九	八五一	一三三	三二	三三	六八
唐丹	二八〇七	二一〇〇	二〇	六八七	四七四	三四一	三	一三〇
合計	三三六〇九	六八一六	三一八	二六四七五	四八六〇	一五一八	三六	二九八一

南閉伊郡 被害地面積八氣仙郡に及ばずと雖も其惨害八本郡に於て激甚を極めたり乃ち氣仙郡い一町十一ヶ村にして六千八百餘の死亡者を生せしと雖とも本郡八僅かに二町一ヶ村にして六千六百餘の死亡者あり以て其惨状の如何に甚しきかを知る

釜石町は千二百餘戸の市街にして人口六千餘あり然るに海嘯の為め存する所の家屋僅かに百餘戸高處より之を在めバ市街全く頽潰し片々たる家屋の用材積で堆をなし死屍ハ累々其間に露はる沿海の耕地ハ総て泥濘を以て填充し警察署郵便電信局及び尋常小學校六ヶ所流亡し巡査一名死亡し署長以下皆重傷を負ふ郵便電信局員某僅に身を以て遁れ数時にして豫備機械を据付為めに通信の便を得たり

大槌町鵜住居村の如きも惨状最も甚たし其被害の概数ハ左の如し

町村	人口	死亡	負傷者	健在者	戸数	流失家屋	半潰家屋	存在家屋
	人口				戸数			

釜石	六五五七	四七〇〇	五〇〇	一三五七	一二二二	一〇八〇	未詳	一四二
鵜住居	三一四七	一〇六九	一九〇	一八八八	五一一	三五〇	同	一六一
大槌	六五五五	九〇〇	七二四	四九三一	一一九二	三六九	同	八二三
合計	一六二五九	六六六九	一四一四	八一七六	二九二六	一七九九	同	二二七

東閉伊郡　本郡中被害の最も多き所ハ田老村にして激浪の高きこと十丈餘に達し潮流の勢最も強大にして沿岸にありたる二抱以上ある松樹凡百本餘僅に樹根を存するのみ又風船帆船の海岸波打際を上る二町餘の山腹に打ち揚げられたるあり以て其惨況の一般を知る如此なれバ村役場尋常小学校校員等皆死亡し巡査駐在所流失し駐在巡査二名家族と共に死亡せり

重茂村　重茂巡査駐在所々在地の如きハ恰も平原と化し只村長の屋根のみ山端に押付けられあるのみ船舶ハ一隻も残らず流亡或ハ破壊し巡査駐在所流失し駐在巡査一名家族と共に死亡せり船越村も亦被害少からず村役場尋常小学校巡査駐在所皆流失し駐在巡査ハ傷を負ひ妻子共残らず死亡せり

山田町警察分署ハ大破に及ひ海嘯の為め千餘人を失ひ災後失火の為め又々四十餘人一片の煙と化したるハ実に酸鼻に耐へざるなり而して其概数左の如し

町村	人口	死亡	負傷者	健在	戸数	流失家屋	破壊家屋	存在家屋
	人口				戸数			

船越	二二九五	一三二七	七〇	二六七	四七四	三七一	一	一〇二
織笠	一八〇〇	六七	五〇	一六八三	三〇三	一〇五	二五	一七三
山田	三七四六	一〇四〇	一五〇	二五五六	七八二	三五九	二五〇	一七三
大沢	一〇三六	五五〇	五九	四二七	一九九	一九八	来詳	三
重茂	一四九三	七〇〇	三三	七六〇	二三六	一五九	同	七七
津軽石	二六一八	三	一	二六一四	四三四	八	同	四二六
磯鶏	一九九六	九〇	五四	一八五二	三六五	一〇九	同	二五六
鍬ヶ崎	三四五九	一〇〇	三三	三三二六	七〇一	三〇〇	五〇	三五一
宮古	五一五七	一二	来詳	五一四五	九九一	二〇	来詳	九七三
崎山	九八一	一六〇	一三一	八〇九	一五五	四五	九	一〇一
田老	三七四七	二六五五	二七七	八一五	六六六	一三〇	来詳	五三六
合計	二八三二八	六七〇四	一三七〇	二〇二五四	五三〇八	一八〇二	三三五	二一七一

九

北閉伊郡　普代村ハ村役場書記一名死亡し又巡査駐在所流失、巡査家族共皆死亡し小水村も巡査駐在所流失し駐在ハ尤の如し

村	人口	死亡	負傷	健在者	戸数	流失家屋	破壊家屋	存在家屋
小本	二〇九〇	三六七	二五七	一四六六	三八六	一五六	一四七	八三
田野畑	三〇二五	三〇三	一五	二七〇七	四六五	四七	四二	三七六
普代	二〇三八	一〇一〇	一五三	一八七五	三三〇	九五	四九	一八六
合計	七一五三	一六八〇	四二五	五〇四八	一一八一	二九八	二九八	六四五

人口　戸数

南九戸郡　野田村巡査駐在所流失し妻子死亡せしも駐在

巡査は僅に死を免るゝを得たり

久慈町ハ被害最も多く村役場尋常小學校巡査駐在所皆破壞し巡査の妻子三名死亡せり而して其被害の概數ハ左の如し

村	人口	人口 死亡	人口 負傷	人口 健在者	戸數 戸數	戸數 流失家屋	戸數 破壞家屋	戸數 存在家屋
久慈	四〇九二	四〇〇	三四四	三三四八	六五七	一〇〇	未詳	五五七
宇部	二二四四	一八五	一四〇	一九一九	三二八	四八	同	二八〇
野田	二五九〇	三一九	六九	二二〇二	四一一	一二〇	同	二九一
長内	二七一九	一二七	一〇一	二四九一	四七二	五二	同	四二〇
夏井	一八〇三	四三	四〇	一七二〇	二六五	未詳	同	二六五
合計	一三四四八	一〇七四	六九四	二六八〇	二一三三	三二〇	同	一八一三

一〇

北九戸郡　種市村中野村の如きも亦被害少なからず然れども氣仙郡等に比すれば被害の少きハ地勢の然らしむる處ならんと雖も亦潮勢の激甚ならざるに依るなるべし而して其被害の概數ハ左の如し

村	人口 人口	人口 死亡	人口 負傷	人口 健在者	戸數 戸數	戸數 流失家屋	戸數 破壞家屋	戸數 存在家屋
侍濱	一三九七	死八五	五三	一二五九	一八五	五〇	未詳	一三五
中野	一六九五	一〇六	六二	一五二七	二二八	五三	同	一七五
種市	四六八五	一七五	六〇五	四四五〇	六五六	八〇	同	五七五
合計	七七七七	三六六	一七五	七二三五	一〇六八	一八三	同	八八五

以上今日までの報告に依り取調たる被害の概況にして役場学校田畑焼癈の及別船舶流失数等ハ目下取調中に付右概況及申報候也

大海嘯後に於ける巖手縣臨時縣會

（七月廿九日午後）

同日午後○時五十分開會議長（丹野氏）は午前に於て議決したる彼の上申案に對して知事之れが請求を容れ臨場の旨就報じ次ひて服部知事には左の演説あり

先刻海嘯の状況並に救護方法の方針我應御聽きになりたいそれは今度の議案に餘程関係あるからと云ふ御請求てありましたそれで其大略を述ます

海嘯の状況と申しまする方に付きましては私が此處で改めて述べるを要せず諸君は既に御承知でもありませうが害を受ますた所は六郡七町三十ヶ村之を部落に分くれば百五十でありますす又其為めに死亡したる所の人員い壹万八千百五

十八人是は初めには二万四千人の死亡あつたと思ひますたが追々諸方より出稼に行つて居りました人が帰りましたり其他より依て死んだと思つた者が活きて居ることを發見して今の人員まあります九百四十三人又流失破壊の戸数六千三十六戸負傷人員二千八戸ありました斯の如く人の方から言ひましても生産力を失ひました其中五千二十二戸と云ふものは救助も受けなければあらぬもてございますす又船を失ひたることが四千三百八十四艘船が破れましたことが二万千二百九十六又此の災害の為に失つた總ての財産を申しましたら是れを餘程のものにありませう是れハ動産あどの方にありますから無論確か調か出来ませぬでございますそれで斯の如く人を喪

ひ船を失ひ網を失つたか為めに從前は海産物が價ひにしましたらどうしても二百万前後であつたらうと思ひます是亦殆ど皆失つたと云ふやうなことになりますたそれで此被害地の恢復は何時どう恢復するか是を豫期されませぬですか假りに来年度丈で其の部落でも地方税を納めることが出来ぬものとすれで地方税の減損額は凡そ二万七千以上であらうと思ひます是れ以て確たることは申されませぬか

営業税あどに付ては「チョ」と取調の確たることは分り兼ねます斯の如く惨状を極めた譯でありまして實ま諸君も御心配にあつて居る如く當局者も勿論此れが為めに就きましては種々救護の方法と云ふ御尋は多分病院とか

何とか云ふことではない今后の業務は寧ろ何にしろ被害の人民がどうしたら業に就くかどうしたら助かるか此方針は如何かと云ふ御問ゞやと思ひます大畧其方のことを述べまするでございます政府からして救済金として三千七百五千六百八十円下賜になりました之れを小別けして申しますれば食料被服家具料死屍仮埋葬費潰屋取片付負傷者救療費と云ふ目は分って居ります其中被害者に直接に参りまするものは食料被服家具料救助料と云ふものが直接に被害者に参るのであります此外に小屋掛料と云ふものがあります是れは備荒儲蓄の方の規則に依って與へました又農家には農具料と云ふものがあり其金の高は

食料は今月十五日から先き三十日即ち来月の十四日までとして老幼男女を問はず現米一日四合の割合で現米若しくは其代金を以て渡すことになって居ります被服家具料は凡そ十五円或は半潰れといふやうなものは多少それより減ずることもあります大概十五円とそれから人数の多い處ではそれを二十円まで貰ふことが出来る救助料は二十円是れを以て半潰れなどの家でも多少減ずることもあります又老幼篤疾病あどの中には三十円まであることもあります其中にて此食料を除けまして踏の被服家具料救助費それから小屋掛料といふやうなものを寄せましると四十五円の家もあります或は五十円の家もあります多少の等差はあります尤それ

マー其近處でありますそれで此金を以て漁民か農業ま
就くと云ふものは隨分困難はありますが私は今
日此處で御話するのには政府がさう極められたと云ふ
ことも一口御參考ま御話す申すます政府でい農民
も漁民も其の他の者も貧民ハ同しく貧民である固と
何の業をして居ったから澤山やらにやーあらぬと云
ふことは出来ぬから同じく貧民とーて救濟する処
が今度の一体あう農ならう備荒儲蓄といふものがあ
るからそれのみで云ハ、法津があるから農と雖ども今
度の災害といふものは非常なことであるから被服
家具料あとは特にやるといふこと丈で斯ふ極った譯
でありますそれで之れを以て一人一人に割付

致しますとそれで船を買ふ網を買ふ種々のものを買ふ
と云ふソしく困難なことでありますそれで此際は成る
可く部落の者を相談をせしめてさうして互に寄り會
つて船を造り或は網を製すると云ふやうな方針を成る可く
執らせにやならぬと云ふことからして今のさう云ふことの世話
捌と云ふ者も設け種々な方法を以て其目的を達ったいと
希望して居ります、又是れは政府が算入に入れて居った
譯ではありませぬ幸にして諸方からの義捐金も集りまし
た是一方に割當てますると二十五円以上には無論なるで
あらうと思ひます或は三十円にもあるかも知れないそれや
是やを取集めてさうして出来得る丈けの世話をーて
皆業ま就くやうにさせたいと思って居ります

めには官林の拂下げも特ま許して貰って居る又國税の事ま就ても今大藏省へ照會中でありますま又世上との交通の便を謀る為め定期航海を郵船會社に頼み且此度縣會へも案を出した次第でありますま又學校のことに就きましても既ま案を御覧になった通りの次第でありますま其外道路程提防のこと又勸業上に就きましては今調査中でありますま其の調査の上では其人をそれ〳〵定めやうと思あて居りますそれで此善後の計畫實際其目的を達するのは餘程困難ではあらうと思って居ります併し是非其目的を達することを努める決心であります大体それ丈のことを御話し致ます

右了りて二三議員の質問あり夫より明治廿九年度地

方税支出追加豫算議案中警察廳舍建築修繕費以下勸業費迄の六科目に對し調査委員として二番鈴木文三郎十六番吉田弘二廿三番照井洋一郎廿七番八角金吾廿二番阿部靖之助五十二番小原吉四郎六十五番下斗米常直の七氏を議長が指名し了り閉會を告げたるは午後第二時十五分なりき

1K